

平安・鎌倉仏教要文集（上）

高 橋 秀 榮

一冊の書物を読んでいて、その中の一句、一文に感銘を覚え、心がくぎづけになることがある。そうした文章が、いつまでも心にのこるのは言うまでもないが、また、時として自ら書き写し、後々の指針にあてることもある。ある日、なにげなく手にした一冊の書物が人生の伴侶となるのもそうした心を動かす文章との出会いゆえであるが、おしなべて読書の人、学問の人は書物を通じて感銘を覚えた文章を抄出して教養を磨いてきたといつても過言ではない。

「学問の道は抄出を宗となす」とは「書斎記」に記された菅原道真の言葉であるというが、学問の第一歩とは、たしかに心に感銘をさそう書物との出会いと、そして味わい深い要文の抄出が始まると言つても過言ではない。

私は『大正新修大藏經』巻七十六に収録されている『溪嵐拾葉集』や『行林抄』を読むのが好きで、折にふれひもといっているが、これらの書は中世仏教の要文集とも言えるもので

ある。『溪嵐拾葉集』は鷺尾の光宗が、比叡山の山間に積もった木の葉を拾い集めるようにして、比叡山および天台宗に伝わった様々な口伝、口決、秘伝などの類をまとめたものであり、『行林抄』は無動寺の静然が台密（天台宗の密教）の諸尊法や諸師の口伝を集めて筆録したものである。したがって両書の中には中世の仏教を窺う珠玉の要文が集められており、事相研究に何かと示唆や刺激を与えることが多い。底本の校訂が行き届いていないくらいがあり、また幾ばくかの誤記も目立つが、散文あり、短文あり、章句ありと、どこから読んでも楽しく、じつに興味尽きぬ要文集である。

ところで神奈川県立金沢文庫には、鎌倉中期から南北朝時代に書写された仏典聖教が多数保管されている。数量的には真言密教の実践修行に関するものが圧倒的に多いが、内容的には平安仏教、鎌倉仏教に関するものであり、じつに貴重な史料群を構成している。私は昭和四十六年から金沢文庫と関

わりをもち、これまでに数えきれないほどの仏典聖教に目を通してきた。「天地玄黄」で始まる千字文で分類整理された保存箱は六百八十函を数え、宋版大藏經を含め一万三千余冊の仏教関係資料が収納されているが、館外貸出のため、保存修理のため、マイクロ写真本作成のため、さらには展示公開のためという時々の業務の機会を得て、それとの触れ合いを深めてきた。そしてその都度に本文内容を解読したり、疑問な文字に遭遇しては識者に乞うて見聞を広げる努力を積んできた。その間、思わぬ記事との出会いをもち、歓喜勇躍したこともある。先輩諸氏が見落とした珍籍に出会い、紙背に眼光を照らしたこともある。研究生活を続けている人にとっては何ら奇異とする事ではないかもしれないが、私自身にとっては思い出が尽きない。

このように写本との親しみをもつて二十余年に及ぶが、その間に備忘のために書き取つておいた断片記録がいつの間にか袋に收まりきれないほどになつてきた。当初は小さな文章を書く折の傍証史料にあてようと思つてコツコツ書き止めておいたものであるが、活用の妙案が思い浮かばず、なかなか論文に活用する事ができない有様である。そこで、いたずらに座右に放置して闇雲に埋もれさせるのも惜しい気がするので、ここに「平安・鎌倉仏教要文集」と題して紹介するものである。以下に列举する一一の要文（経文中の大切な文句）

は、あくまでも私個人の恣意による拾い集めであることをお断りしておきたいが、記述内容はいずれも金沢文庫保管の資料であるという点で、いくぶんかの史料価値があろうかと思う。外部の人々に読まれる機会の少ない仏典聖教の資料紹介を兼ねて種々の要文を抄出したので一人でも多くの方々に活用して戴きたいと念願する次第である。

なお抄出要文には通し番号を付し、一一の要文が重複することのないよう、聖教を納めている保存函の順序にしたがつて配列することをこころがけたが、要文の配列はからずしも一冊のページを追つてはいない。要文の典拠と書名は、一の文末に括弧を付けて示した。文中、翻訳できなかつた箇所は□あるいは〔〕で示したが、解読した本文にも思わぬ誤読があるかも知れない。その正誤確認の作業は今後、識者の意見を受けて補訂していきたいと思つてはいる。私個人の興味と関心で拾い集めた聖教の断片記録の抄出にすぎないが、今回図らずも学術研究誌にこのような形で紹介することができることは望外の喜びである。

1 玄奘度天竺、值戒賢論師、十七年程学、後証拠求經論、終不出、故玄奘向觀音像、奉問、故不局自身一人也。

(三) 宗要集見聞雜帖)

2 起信論天竺、絕無本。戒賢論師問玄奘三藏、唐土有聞、梵語サヘツレトイヒケレハ空漢語起信論訳梵語也。

(三) 宗要集見聞雜帖)

3 \解脱房云雖不起真實菩提心、聞アタナ名、我身有仏性、云事実名大式已講長慶也。

(三) 宗要集見聞雜帖)

4 花台房明慶以比三性法門、遇南都歲俊僧都難、僧都手ア力

イテ、ヤウナイヒソクトシキ、此難極難故也。

(三) 宗要集見聞雜帖)

5 今不専、本一心外無有法、故真如里緣起成融等也。本里内有之故也。尊勝法印円能講答、以始起有德答、サスカニ不詰也。始起有德云事、安然教時義云衆生迷故成多衆生、諸

仏覺故會成一仏、雖無量成仏而仏界不增、亦雖無量諸仏滅而仏界不減。

(三) 宗要集見聞雜帖)

6 \講堂立義横川興円僧正弟子大納言禪師立云意根章已縁三

界外見法花六根互用也。故共可縁外云々。題者不精一付頂算此上蘿也。池大納言孫、前三位入道子也。其上十三四計欽イタイケシタル故也云々。 (三) 宗要集見聞雜帖)

7 頂勝房已講忠算云文料簡任経云々。其日草木成仏算此算無沙汰云々。忠算後被云アレハ闡提云也、非無性有性云々。神舫又尺意也。

(三) 宗要集見聞雜帖)

8 範源精云抑即身成仏云事何云事。答云即身成仏云事也云々。サテ御房三藏□可云也。今尺尊即身成仏故云々。

(三) 宗要集見聞雜帖)

9 慈恩基法師等也。基法師、尺一乘方便四乘真實等云也。慈恩玄奘三藏、面授弟子也。玄奘受天竺戒賢論師、ヨリカムル偏執起也。其前經論只是申權教辺得意拾也。護法意介也。但玄奘向觀音像發三願云經論世間云何經論知給願也云々。但文意三願俱自身事見 (三) 宗要集見聞雜帖)

10 記四云位拠理性決相、得隨緣不可改文
意云位性真善妙有位住彼立隨緣也。故十界性真實也。静名

法印常此文出一切法門成也。是法住法位。世間相當住尺也。相真實也。況性

(三) 宗要集見聞雜帖)

11 天台即身成仏云。觀本具一也。我已心具三千。知即身成仏也。

非外求故速疾也。余宗凡不云十界互具也。

(三) 宗要集見聞雜帖

益法門アルト問忠尋此論義送、實此問義尤相兼也。

(三) 宗要集見聞雜帖

12 重難云円教相即有三。謂事里^(理)、事々事、事里也。事々相

即句何不転乎。小乘淺近教。猶以骨人^(ヨリ)放光等不思議^(アリ)。何
況大乘不思義乎。慈惠大師御弟子僧伽聖人^(賀)夜々下カモ河^(ニ)
修不淨觀。慈惠云汝觀不淨觀^(アリシカハ)仰^(アリシカハ)飯皆虫^(トス)。又煩惱^(レバ)
心所法思^(レバ)可直、生死有法也。何不可転云也。

(三) 宗要集見聞雜帖

17 師^(理)云止觀一念三千云時十如是一算同得事里^(理)也。且那流得
里^(理)、惠心流但得事^(理)也。

今義云此是本迹大事也。事具本門、里具迹門也。如止觀見
聞。惣大和庄本迹不同事能^(レバ)可得意^(レバ)事也。止觀事起可云
也。惣觀無記心^(ヲ)具三千云寄里^(ニ)云也。迹門意也。不及真
如故還歸本里^(トモ)云也。下發得九境云本門意也。隨緣不反意
也。起心三千具足尺也。

(三) 宗要集見聞雜帖

13 殿舍利講、兼尊白法師^(賴兼)講師也。

(三) 宗要集見聞雜帖

14 横川尊勝法印^(文)當知身上。私記第三義也。

(三) 宗要集見聞雜帖

18 護法^(法相)清弁^(空宗)智証尺意也。此二人可生都率^(カシラテ)業有依此
空^(空)有^(諍)落修羅^(窟)也。真言^(イタキ)合待弥勒出世^(トモ)也。須弥傍也。
上品即身成仏、中品淨土往生、下品スラ^(トモ)也。真言^(イタキ)合待^(トモ)也。
故龍樹破之造中論。因緣所生法等是也。中道云故天台免
有無二失也。花^(ム)宗典大小差別^(トモ)。故秀句破云遠法師有四
失、一監小大乘失^(アリ)法花貪着小乘三藏學者文何無大小差
別乎

(三) 宗要集見聞雜帖

15 慈鎮和尚見寶地六十卷私記^(テ)百年前可出人也。ヲソク出^(タリト)
云々。横川尊勝谷治部卿法印円能私記持大乘意也。別門付謗
不及円実義^(テ)。

(三) 宗要集見聞雜帖

19 尋云六根功德多少如何。答。般若房^(ニ)得四方十二神^(ニ)云也。
而此首楞嚴經新訛經也。

(三) 宗要集見聞雜帖

16 知足院禪定^(殿)天下、東陽座主忠尋^(テ)許教門實義相兼而可成自身

20 智証大師引南岳积大乘止観_(理)一本里之内、在性在修染淨不二也。譬如水隨長短方円、類青黃赤白等色、是妙法蓮之阿字觀意也。

疏三引正法念經十種衆生謂長短方円三角青黃赤白紫文

（三）宗要集見聞雜帖

（七）華嚴宗信解安心要文集 上

21 御物語云解脱御房親父弁入道是真言見觀音曼タラ中央觀音住八葉阿彌陀住。師弟坐位相反。此事高野五智房遇尋此事

（六）秘藏記聞書 上

（七）華嚴宗信解安心要文集 上

22 以心伝心者是達磨大師之言也。因下可和尚諮中問此法有何文字教典習学上。大師答云我法以心伝心不立文字。謂雖因師說而不以文句為道。須忘詮得意即是伝心等文

（七）華嚴宗信解安心要文集 上

26 次不起新生惠解者、花本自紅、何更添彩。若強加巧師之画功、定知傷真正之本色

（七）華嚴宗信解安心要文集 下

23 故今觀文云攝一切入一切也。且如夜摩偈云心仏及衆生是三無差別。起信論云是心即攝一切世間出世間法。故今円宗

始學人、以此等文理為信解大綱。常向見聞覺知、當起一念觀心、行住坐臥專可思想攝一切入一切之妙義上也。

（七）華嚴宗信解安心要文集 下

27 裏書云文治年中後白川法皇御如法經河空上人断穀聖非自然也御先達也。違行法說甚不審

（七）如法經手記 本

28 弘長元年仙洞御如法經、公豪大僧正為御先達被用十二神

（七）如法經手記 本

尋云縱雖無解、若聞聖教知識之一言、即以深信、專凝觀行、有何違失。而言其行必孤乎。答。花嚴章流轉正有此問答、具如下引可見之。當世多有如是見取之輩、深用心。

24 孟子第二章句下云老而無子曰獨、幼而無父曰孤。准思應知。

29 裏書云弘長元年三条殿如法經、堂中灑水無之。

（七）如法經手記 本

30去嘉禎二年金泥如法經、故承円僧正御勸進書之。抑遮絹綿一用布紙。律宗有開遮、經文不遮之。（七 如法經手記 本）

31如一掬之水隨器一名瓶水一名椀水。一種防非無作名僧戒、名尼戒。此即根転戒存道理也。（七 生弘抄受法）

32仰云昔慈鎮和尚御時、講經之砌此論義出來。宗淵源只有此事。故今出來吉。但晴如何。可有覽アマリ上代秘之。題目不顯之、末代有仏条事哉。（八 止觀心要聞書）

33但止觀大意五略明修行次第也。サテ十乘觀証次第也。觀不思議境一念三千証次第也。（八 止觀心要聞書）

34瑜祇經云如秋八月霧、微細清淨見、常住此等持、是名微細定。自性所生障、必得此方便、決定月金剛、三界無能越、時自生障聞、此秋已忽然不見文

今師云中道月出無始無明妄執云モノニケサル也。秋霧月出皆消也云々（八 止觀心要聞書）

35智証大師云止觀一部、本仏行因之相也云々。本仏行因者、迹門意、從因至果也。（八 止觀心要聞書）

36恵心称名頻勸給、御弟子卒都一向觀念也。恵心觀心往生文成仏難往生易。与觀真如法性一人如是難成仏即身成況易生極樂一定アル也。（八 止觀心要聞書）

37仰云高野道範真言抄見其ヲソロシキ事也。我既自行事不思化他思書。凡果地、如來大寂無究ノハ九位化他為本。法花每自作是念、以何令衆生、得入無上道、速成就仏身文只是仏果位、當大悲一給。（八 止觀心要聞書）

38仰云當流第九地接者可有之。付之安居院乘明房立□觀雙流義、當流立出仮義。（八 宗要集聞書仏帖）

39恵心僧都學法相宗後作一乘要決、山王御意叶、又惠心文料簡議々而達心本源□也。故人云惠心洪才ツフムシニ不及云ヘリ。（八 宗要集聞書仏帖）

40此義靜明真經御八講時ケスホウタリシ義也。非吉義。宗要集大真經者、サカ殿有也。（八 宗要集聞書仏帖）

41仰云、多渡次中一渡次云。兜卒天与仏出世時相会故。云々此後次義是難知事也。此論義只堅事云外無義。宗要集大事云事大旨也。是体大小乘經論中堅事算頭内乗、何義不

成一事也。

(八) 宗要集聞書仏帖

也。當時高野印板是也。

(八) 付法伝聞書

42 問。定意立超中二果耶。

仰云此論義唯識性相也。是面白性相也。是利根二乘超中二果也。(中略)

仰云興福寺法師參最勝講此論義不知。已宗論義不知。散々事有。

(八) 宗要集聞書仏帖

46 玄宗依受廣智三藏灌頂、先師贈謚号、是廣智德也。日本寛平法皇依受圓成寺僧正灌頂、大師奉贈謚号同例也。

(八) 付法伝聞書

43 仰云智証大師五口合義尤貴、違天台妙樂尺^{ハシ}義惡、此義尤貴也。靜明人師解尺不違天台妙樂尺^{ハシ}用之違不用之。

(八) 宗要集聞書仏帖

47 酒事、以喻可知之。均等軌云附子毒藥也。伊師得之治病安身。酒歡喜水妙藥也。田夫令^{ルコト}悅此酒也。能飲人藥成惡飲人成毒也。

(八) 聖天聞書

44 仰云西塔義依転於法^一故臨滅度時仏在□□勸發□正□^(知達か文)意文皆此土廻心^{云々}。東塔義決定性聲聞彼土廻心也。不定性聲聞此土廻心也。此義中東塔義吉也。範源法印□□云文中載此二義、值乘明房^一受東塔義^一、值賀融聖人座主等四人^一受西塔義^{云々}

(八一九) 宗要集聞書仏帖

48 宝冠中有白蛇向五方等文
了一上人云一駄大日宝冠中置五蛇、向五方如計都星。此

蛇如意寶珠也。如此畵繪尊調伏本尊也。唐橋流殊用此義。成寅僧都持此尊、親^{タリ}拜之^{云々}。(九) 能作生口伝)

49 別秘口決池 師云非南池、堀池也。即信証也。統別秘口決師最寬口決 宏教記之。付統別秘口決不審處記之。

(九) 能作生口伝)

45 題号事

上古此伝粉出了。其後天野御堂天井^{ヨリ}見出之處無題号。然間海雲記相類此伝一間、後記題目取叙伝等置題号了。其後高野雜筆本見^{ルニ}秘密万タル付法伝二間見。然間改本名付直^スハヽトシタル一流也。

(九) 能作生口伝)

51 売利法四通内、切紙二通、岳東院作也。タトカミ二通内、一
通口伝也、一通唯作法也。

(九 能作生口伝)

52 姓名書金剛盤下置文、了一上人云恐怨家姓名カイテ金剛盤、
下ウツフサマニ置拍掌時トリ出左掌中ヲイテ三度打之。觀
法打摧怨家三毒ト觀也。行者忿怒成者、心成慈悲
觀形成忿怒義也。

(九 能作生口伝)

53 避地法ヒシヤトヨミテ如意宝珠法得意。ヒシヤト云玉アリ。
以此玉名此法也。一義避地ヒヤクシヤトヨム也。避邪執
義也。一義此等皆淺略聞耳也。深秘白蛇得意也。蛇者如
意宝珠義也。

(九 能作生口伝)

54 岳東院僧一期成三果。一果大仏眉間在之。一果春日社在之。
一果持霸王院置之。岳東院一客名也。其内勝賢僧正住房
一アリ。此玉安置其房一名持霸王院、然故成賢僧正ヲホ。ツ
カナキコトニメ取出隨身。次讓道教、道教讓通円、定濟
也。通円ウシロミノ教実法橋質ヲク。定濟僧正尋之一ウケ
テトル也。當時定仁法印ユツル也云々

(九 能作生口伝)

55 欲結界之時、清淨香湯沐浴即着上妙衣服、不食五辛酒之
属芸台葫蘆及椿蕊不經口、結齋清淨、世尊此
咒奇特無比

(一一 太元法)

56 一定律師云愛染王真実白色也。雖然憐愍衆生大悲心碎骨
髓大悲之注遍身流紅膚染故赤色也。(一二 愛染王 下)

今明王指本誓末法、是猛利悲願也。

(一二 愛染王 上)

57 一、白河院御年廿五之時、被仰義範僧都云今年極重厄也。
若過今年者今旦可在世、延壽命法如何。僧都奏云可令行悉
地成就法。御宣旨云何悉地成就法。僧都奏云愛染王法也。
宣旨云極貴事云々

(一二 愛染王 上)

58 興正菩薩戒律中興之初、自十六羅漢御意一起帝釈下來、
勸尼受法。帝釈告云、如法出家受戒雖弘一世、尼法弘
通末無之。須興此法。是依十六羅漢仰所示也。云々

(一二 授菩薩苾芻尼戒作法)

経云汝今為諸末法世中善男子善女人等廣說利樂文

諸仏利益限時、薬師像法薄時益、弥陀末法利益增也。

60 一、南面堂不空羈索像頂上有比丘像。是弥陀因位宝藏比丘也。凡觀音於淨土者戴果仏弥陀、於穢土者戴因位比丘。宝藏者即地藏也。故當流秘伝地藏与弥陀一体習也。此事能々可秘之。

(一一 尊法聞書)

61 一、心經法事

於息災之法中殊此法除疫病、凡十種利益四種功德皆本經說之。其中殊除疫病功能當時最上也。大悲拔苦之誓只在除此疫病、仍名大悲金剛、是則蜜号也。

(一二 尊法聞書)

62 (一面法) 二、為除病患疫病等可修此法

63 私云大谷道場觀者誰作耶。了一上人云下酉酉大谷云處アリ。其ヲクノ山キワニ蓮藏院云處アリ。ソコノ根本房主覺俊阿闍梨云人アリ。其人作也。乘印血脉云覺源僧正弟子覺俊阿闍梨号宮阿闍梨。花山院御子彈正親王云人息也。仍覺源ヲイニノ而弟子也。明匠也云々 (一三一①仙芥集)

64 了一上人云上酉酉水本モトニ尺迦院有。覺鏡僧都ト云梨印海教授。其覺鏡流唯用延命院道場觀也。無用大谷道

場觀一事。旧日記中実運已後用大谷道場觀也見タリ。
(一三一①仙芥集)

65 問。神樂岳者何処耶。了一上人云船岳山辺在之。蓮台野力タ也。廣澤人也。引血脉可見。 (一三一①仙芥集)

66 西院血脉云禪定法皇付法十三人内、第一法三親王真舜、第五長慶住神樂岳已上 (一三一①仙芥集)

67 了一上人云、我初行時用大谷道場觀也。酉酉大旨尔也。唯空房云、各用大谷道場觀也。了一上人云、実運已後如是スル也云々

(一三一②仙芥集)

68 問。薄雙紙目錄誰人造之耶。答。普通目錄自古有之。委目錄極樂房作之。其時尊法少々造副之云々

(一三一②仙芥集)

69 尋云白表紙転法輪卷松殿法印云成賢僧正作也。了一上人云不尔、角洞院僧正作也。又覺禪抄記角洞院僧正勤行日記也。故定濟僧正一向用此也云々 (一三一②仙芥集)

70 西西尺迦院々務三河僧都藏有理性院宗命弟子也。相承之。

承久別當也。仍承勅命調伏閑東、雖然身許陳開タスカ

ル、然

トモ

別當メサルゝ也。其後寬海法印、兼惠僧正相承。

兼惠入滅寛法印、當時相承之勤之也。

(一三一⑫仙芥集)

71 許可略作法有二本同本也。一本從法性寺法印賜之。静遍受遍知院次第也。一本從大殿法印賜之。遍知院自筆御本書寫之。但撰日事、加行事、道場莊嚴事、遍知院本書別紙具之。法性寺法印御房本末書入之也云々

(一三一③仙芥集)

72 了一上人云印公禪門者覺洞院僧正ヲトゝ也。印蓮坊也。故云印公宰相入道号。俗修範也。勝賢為此人造阿彌陀護摩以此阿彌陀護摩為本、遍知院造不動コマ以爲本。

(一三一③仙芥集)

73 不動護摩末記云為印公禪門(俗名修範)被記之云々。親玄法印御房仰云遍知院記之。修範者成賢僧正ヲチ也。小納言入道息也。

(一三一③仙芥集)

密教物云ノコサスト云々 (十三一④仙芥集)

75 守護經法。

親玄云自御屋所望勤行此法御。此法勤行タヘタリト被行之。其時法勝寺塔燒失。仍不吉也。小野広沢不行之云々

(一三一⑤仙芥集)

76 勝海、成賢汀上足弟子也。可為補處仁早世故以道教為補處。道教、梵漢俱能書而早筆也。 (一三一⑤仙芥集)

77 一、白表紙切紙次第在之何時始之耶。

親玄法印云成賢僧正最初以白表紙許石山範賢僧都、是白表紙ユルシハシメ也。此範賢本切紙セラルゝ也。其以後切紙流布スルト云々 (一三一⑤仙芥集)

78 覺洞院建立事。勝賢建立也。最初名持宝王院、次名山岳。東院。後名覺洞院。 (一三一⑤仙芥集)

79 白表紙第五奧書云東寺末葉成賢文。法印云成賢所持文也。手跡賢寬阿闍梨云モノ書之。末日記外題成賢書之。

(一三一⑤仙芥集)

80 一、自行次第誰作耶。親玄云實運作之。問。其中法化等法

同人作之耶。親玄云、余也。但引御遺告文一事、覺洞院也。
私加之。

(一三一⑥仙芥集)

81一、覺洞院以自行次第一為一期所作者實余耶。親玄法印云
余也。

(一三一⑥仙芥集)

82妙抄事。

上酉酉在勝俱胝院云處、其處ヲクルスノ常。曉ノハカアリ。

故云メウト。音カヨウ故云妙也。其處住故明海云妙僧都
也。寬命作之而早世。沒後明海再治之コトハヲ副。仍云
明海作也。受印可初心人与之也。(一三一⑥仙芥集)

益曼陀羅無異事。

(一三一⑧仙芥集)

83一、勝円法印早世、閔東輒許自行次第一。又輒造作寶珠。此
二失也。本寺沙汰也。

(一三一⑥仙芥集)

84如意寶珠日記事

九条殿兼寒日記在之。兼寒者月輪殿也。禪定殿下行家ヲチ
也。兼寒日記勝賢僧正注トハノ如意寶珠ソハラレタリ。如
台皮籠日記トハノ如意寶珠唯仏舍利也。二十種香藥牛玉
鹿玉等ソヘテ入朱唐櫃被置也。(一三一⑦仙芥集)

85血脉者チノミチノスクニ下ルカ如ク師資スクニ下名。汀護

86仰云仁海僧正時、以云如照、繪師、增益曼陀羅被畠。菜色也。
スミカキニハ非也。定海僧正時、以珍海已講以仁海増益
曼陀羅被畠改息災曼陀羅。新訳仁王經中大火大水及大風文
火天水天風天也。此三天被畠加此即息災由也。其外与增
益曼陀羅無異事。

(一三一⑧仙芥集)

87一上人云酉酉辺如四度加行、一期一度必勤行之。或五
十日、或百日也。其都不用承仕也。(一三一⑯仙芥集)

88中納言法印云廣沢用常喜院次第。武藏阿闍梨御房云酉酉
常用常喜院次第。故實賢僧正以常喜院次第為本。私注加
次第別在之云々

(一三一⑯仙芥集)

89私云、改増益曼陀羅勝覺欸。光寶次第其由見也。雖余
寛信モトヘ珍海ユク。付其定海時事欸。了一上人云珍海
已講三論學生也。与寛信同法也。三論絕スタレタリ。珍
海興之大事論義等興之也。珍海定海弟子也。元海弟也。
元海僧都、法勝寺執行俊寛、珍海、三人兄弟也。珍海非仏
師公達繪也云々。光寶口決異之。

(一三一⑯仙芥集)

90 玲海已講以定海墨書スミカキノヲ本スミカキノヲ往寛信許モトヘヲ此ウツサス。其夜夢見

様貴女立岸上ヘニヲソロシケナル男等杓クムテ西西深砂河ノシムシャカハノヲ水一カシ

ラクタリニ此カク。貴女此カケサセテ被レテ仰クカヲ云我寺アサマ

ニスル物如此罰スル也トニヒスヲ。玲海夢サメテヲソレ入次日

往寛信許乞返之。雖余其日病付ヤカテヤミテ死スルトテ也云々。

已上親玄僧正説也。

(一三一⑧仙芥集)

91 \如法尊勝法時淨衣淺黃色也。若宮僧正御房若宮正應四年

十月比勤行之御。或衣コシ仍淺クソメナヲス人モアリ、ウ

スキキハタ色也云々。

(一三一⑨仙芥集)

92 トカノヲノ上人時現給シヘル仮眼モ(女形)仮也。ト定也。意教上人仰

云此等女形男形等非常男女二根ニ也。且為表定惠。現男女

形質ニ也云々

(一三一⑩仙芥集)

93 三宝院者有三宝、故名三宝院。三宝者、一義範僧都靈加持五古、二以金奉鑄聖天、三義範所持仮舍利卅二粒。金銀真珠等被安置、是即如意寶珠也。

(一三一⑫仙芥集)

94 問。四ヶ大法者何耶。答。酉酉日記云仁王、請雨、孔雀、

守護。五ヶ秘法者、同日記云如法愛染、如法尊勝、轉法輪、太元、後七日。

(一三一⑫仙芥集)

95 步擲明王讀方

歩擲明王八大明王内也、古フチヤクトヨミ讀ケリ。此明王唐笠ホテキハ

サシタル也。

(一三一⑫仙芥集)

96 一、白表紙、野鈔、秘鈔異名事

親玄法印云角洞院初抄集被進御進御室。其時御室此名野抄メシテ御。其後御室再治御。即名秘鈔ト。其時角洞院被見仍返書留。其時少々不書之。仍覺洞院遍知院ヨリ少々欠書。後遍知院申御室シテ書繼也云々

(一三一⑫仙芥集)

97 酉酉雜抄、異名ヒケ雙紙

問。誰人制作耶。答。覺雅法印云弁入道生西對一海律師ニ受法。其分記之一無灌頂等大事ニ。又無大法秘法口伝。通途事也。故成賢僧正取寄セテ大要事ニ指計算ヲ令道教僧都ニ令抄出二条也。此二条中記事其中肝要也。不遇之云々。弁入道生西者、通憲入道次男貞憲右中弁解脱上人父也。覺雅云成賢僧正松橋不返酉酉唐東房ニヒケ雙紙ヲカレタリ。當時在彼房ニ覺雅モトニハカキウツセル本在之。

(一三一⑫仙芥集)

98 此蘇悉地宗翳将来也。大師不伝之法也。仍如是書之也。六条伝宗エイ流書之也。非當流云々。宗エイ本山僧也。智

証受汀。依山王勸入他門。汝他門ウツレト云々。仍移東寺
覺雅(許)□也。

99 覚雅法印云、中書本与清書本二合在之。勝賢マテハ並ヘテ伝
之。勝賢以中書本一讓実繼法印、實繼聖教憲深僧正伝之。

(一三一⑫仙芥集)

(一三一⑫仙芥集)

100 受法事。

了一上人奉尋故意教上人云妙鈔ニハ猶有大事。自白表帯可重、
何以当世妙鈔授与人、白表帯ヲハ秘之耶。故上人云尤有此不
審。神妙有御尋。秘白表帯事故勝賢僧正以此等名ヘテ奉授御
室一畢。

(一三一⑫仙芥集)

101 奧沙子平法事

了一上人云酉酉三宝院習云奧沙者河沙也。不動梵語也。子

者弟子門徒義也、平者平安義也。行不動法龍智弟子門徒

平安也、云義也。

(一三一⑫仙芥集)

102 奥沙子平。了一上人云極樂房、意教上人、定撰、如是ヨムト云々

(一三一⑫仙芥集)

103 小栗寺常曉大和アキシノニテ取闇伽水時、ウシロニヲソロ

シキ形現、水移、畠之モテ渡唐時習此法時即太元明王也云々
(一三一⑫仙芥集)

104 勝賢高野參籠日記云凡勝覓、定海、又嚴覓、寬信等自抄
等、都皮子三合所納二百余卷。自然可取持也已上

(一三一⑫仙芥集)

105 定額\サヤク僧サマシ可讀入寺僧也。廿人アリ淨行人也。聖道也。房円僧正、

上酉酉尺迦院法印等是也。尋常人モナル也。但請定額僧一事ハ
古事也。當時大阿闍梨弟子等也。

(一三一⑬仙芥集)

106 問。酉酉何王建立耶。仰云延喜、朱雀、村上三代御願申也、
酉酉塔延喜天皇クミ御五重塔也。末供養ニシテ御崩御也。朱雀
天皇供養之一御。

(一三一⑬仙芥集)

107 大政僧正御房仰云下酉酉三昧堂、云堂アリ。其堂延喜二間觀
音御ス也。聖觀音承也。聖主拝堂時拝見之。物中記ヲク也ト
ヲホユ。見出タラン時可告ヘテ云々

(一三一⑬仙芥集)

108 延喜御本尊下酉酉三昧堂御也。三昧堂者為延喜御孝養造
之。御タフサヲキマイラセタリ。御骨ミサ、キニ御ス
也。帝王無火葬、仍如生御時ノキスミサ、キニ奉置也。此三昧

堂無御骨也。奉安置一間觀音也。然一定律師奉移上西酉念學院ヲキマイラセラル。夫親奉拝即如意輪觀音也云々。

(一三一⑬仙芥集)

109宗仁天、トハノ院御名也。送之平^{コレヲヒヤウキウ}救阿闍梨許^{ノモト}消息返事可訓其時文者モノカキ也。

(一三一⑬仙芥集)

110有山一山欵。宝珠以山為目、故法印御房仰云ヘン一ヨム。了上人云サヤ也。然而常宇一ヨム也。

(一三一⑬仙芥集)

111問。酉酉塔東房申房有承。以何一名塔東耶。仰云五重塔東アタリテアリ。然間異名塔東房申付。任賢兄弟教賢云物有。其造レル房也。已上物語也。

(一三一⑬仙芥集)

112惠丹得業、南都ユイマノ立義^{(堅)ヲ}トケヌレハ云得業也云々

(一三一⑬仙芥集)

113香隆寺僧正者寛空也。二代御記者広沢文也。

(一三一⑬仙芥集)

114太元法阿伽水大和国秋篠寺阿伽水取用也。太元法末寺也、太元法時其寺取阿伽水進也。此阿伽井ヲクルスノ常暁入唐以前取阿伽水時太元明王現井中、天魔カトテ恐之也。渡唐習此法時、見太元明王像、大和国阿伽井中現像也。此阿伽井水後加持阿伽水用也

(一三一⑮仙芥集)

115饗応^(ヨウアテ)。応ヨウトヨム也。饗クフ也。タカツキニ居クフ也。酒アル也。ヘイシヲトリ出ス也。

(一三一⑮仙芥集)

116母屋両壇中間当イルクチノホトニ自大師御時一フミテトヲル石アリ。長者外此フマス。此石フミテトヲル也。タノノ人都フマサル也云々

(一三一⑮仙芥集)

117太元法勤行処

官厅後長屋^{ノロ}名内裏^{ノクタイリ}。国王其先入御^{ヘツリシテ}次師子床有處^{ノルヲク}名官厅^{ノトメリス}。初入御長屋^{ニテ}太元法^{ノヲハ}行也。伴僧廿人。後加持毎夜在之。道場勤之。後七日其定也。

(一三一⑮仙芥集)

119 加持香水内裏勤之。從真言院一大阿闍梨伴僧車參也、最勝王講南都北嶺論匠等、或車、或コシニテ加持香水所參也。別役ツトメネトモ参付床也。（一三一⑯仙芥集）

120 真言院王御念誦御持仏堂也。号念誦堂。貴人御所ミクルマヤトリノ傍ツクリツ、ケテ御念誦堂アル也。院御所御念誦堂外亦有御持仏堂。内裏御念誦堂外別無御持仏堂

（一三一⑯仙芥集）

121 了上人云後七日大内裏真言院勤之。五斎会モ大内裏官聽勤之。國王御聽聞無之。南北論匠等衆会論義

（一三一⑯仙芥集）

122 大元明王者毗沙門天下在八大將軍其隨一也。アタハク將軍也。石山七集胎藏図卷毗沙門天下記之給也

（一三一⑯仙芥集）

123 宗命經解
太元別當
蔵有
琳經
西別當
公然定仙宰相僧都
(一三一⑯仙芥集)

124 常暁從唐向日本投幡、アキシノ、アカ井傍ヲツ、仍アキシノニモ七日間神供勤之。
(一三一⑯仙芥集)

125 最上秘藏義云、楨字ハ印也。ヲシテノ義也。ヒトヲシテフタニヲシテト云事也。其故智証大師自唐土持來御御日記ニ云不動像一楨、觀音像一楨云也。是ヒトヲシテノ義也。仏昔奉摺其義ヒトヲシテト云也。然間楨字印義也。（一三一⑯仙芥集）

126 阿性上人弟子治部公云故上人求聞持道場ネスミ不入也。云々。又闕六根一人、貧報人等不入也。真言專事法故如是ホコレヲイム也ト云々。又仏供等イヌ、カラスニ不令食云々、又何法承仕之外輒不入人也。（一三一⑯仙芥集）

127 勤サウ僧正奉授大師一本尊蓮花下クキヲカク也。彼御本尊興福寺聖院現在マシマス也。世拳コソテ云悉地成就本尊也。繪師西金房筆也。此義秘藏義也。（一三一⑯仙芥集）

128 雅宝口伝云言烏瑟沙摩者不動明王也。或言受触金云々。即是不淨金剛也。又名火頭金剛。又云穢迹金剛。皆一名也已上

（一三一⑯仙芥集）

129 私云、有人云興福寺南面堂藤原氏造之。（一三一⑯仙芥集）

130 愚人者、卑下言也。延倣シウ尊師御弟子也。西第六代座主

也。定昭西酉法師也。自謙句、卑下句也。

(一三一②0仙芥集)

136 (梵字) ユギ汀外題書 仮名卷物興然記也。受大智房喜俊^{実名}時日記也。

(一三一②4仙芥集)

131 梅林者、梅旦^{シント}林云事也。讚諸僧^ト也。蘿洞枯株者、我身也。卑下句也。我身クヒセニ喻也。 (一三一②0仙芥集)

132 大理趣房事、有人云一乘院大理趣房常申也、小野曼荼羅寺辺サル处在欵。 (一三一②0仙芥集)

137 願上人定祐^{トノニハ}辺五印印下真言キリツキ等无之。定仙自三方受之。三方者、卿アサリ、定祐、能海也。願上人、殿法印唯物語^{リニスル}談也。

仍永仁四年九月二日尺迦堂^{ニヤ}同法四人授之。皆具足授之也云々 (一三一②4仙芥集)

133 覚[\]譽興福寺別當也。
注\宗輔、伊通、高野相觀房祖父也。宗輔子息大政^{シャウノ}法印子也。

(一三一②0仙芥集)

138 阿性上人弟子^{治部公聖天供}物上分^{ヲハ}皆取直被埋之。殘物人被与之^{云々} (一三一②8仙芥集)

134 公教^{キンノリ}了上人ヒヲ、チ也。三条内大臣也。閑院也。公行^{キンユキ}。同閑院也。三条閑院嫡男也、西恩寺次男也、徳大寺^ハ三男也。 (一三一②0仙芥集)

139 近代^ハ皆修法等依覺禪抄勤之也。物^ト日記伴僧等事一一委之。明僧^テ承修法等先見覺禪抄也。定誓承転法輪法一向依覺禪抄也。 (一三一②8仙芥集)

140 伝法汀器事
法印云故阿性房伝法汀^{ヲハ}唯結縁分被思^{タリキ}、少^ミ事^{アリ}トイヘトモ許之^キ給。非如具支^{云々} (一三一②9仙芥集)

135 有人云、常仰也。此等次第ヲ、ヤケ事也。九会密起三部秘尺見タリ。以其為本^ニ也。又上人覺^{バン}_(梵字)上人両界沙汰^ト云物、以其一大旨人被仰也^ト云々 (一三一②3仙芥集)

141 又左大臣法印御房授源瑜法印^{シハ}御時、屏風ウシロニカクレテ御坐アリキ。 (一三一②9仙芥集)

142 願上人云故意教上人仰云如此事(申)フルキ人ノセラレタルヲ

大概マナンテ、其上隨處シニクキ事アレハミヨクシ、ヨ

キヤウニスル也。亦決定シテ昔ノ如クスル事ハカタクナハ

シキ事也。此等ノ儀式マテハ儀軌本經ニナシ。先達ノハ力

ラヒトモ也ト被仰□ト云々

(一三一②9仙芥集)

143 若宮僧正御房若宮有授時△庭儀、縁上△不行シトヲホ

フ。可尋人。又云故三河僧都駿河国枚マキト云處或衆十口堂

上被行勸修寺汀立留末一行列也。

(一三一②9仙芥集)

144 私云阿性上人奉授極樂寺長老時有庭教誠、但覺法房作其儀

式△云々

(一三一②9仙芥集)

145 但阿性上人授極樂寺方丈御時疊シカレキ。人難之也。其

有先例。雅宝授成宝時疊敷ヲタリキ其例也云々

(一三一②9仙芥集)

146 法印云故道宝僧正御房小御堂授定祐僧都御時、阿性上人教授也。其時願上人定宣ト仙かトウシロヨリヤワラノソイテ見マイラセシ時、阿性上人勤之ラレキ。仍故僧都被授人時教授勤之云々。

(一三一②9仙芥集)

151 (梵字)ア字者胎五大ナリ、(梵字)バン者金識大ナリ、即是色心ノ種子也。顯教△以慮知心ノ極ヲ為真如。達廣宗△理教ナリ。大日御顯密二宗△是心宗ナリ云々。葉上房僧正榮西云々。真言三密△中意密ナリ。兩義可會合云々。

147 又常陸法印云故道宝僧正御房二位殿小御堂勸修寺汀被授三河僧都時平座也。式衆六口先立着座、僧正御房便宜障子内出ヤカテ壁代入御受者大阿闍梨御出アリシカハ、ヤカテ參着座云々。

(一三一②9仙芥集)

148 三宝院了心房云故意教上人以阿闍梨位真言加持受者印明ヲバクチウツシニ授御シキト云々。正ホウル也ト云々。中納言法印云唯大阿闍梨加持許也。無授受者一事也。

(一三一③0仙芥集)

149 安鎮法者、仰云鎮家法等也。

(一三一③0仙芥集)

150 河臨法者、六字法也。法皇御時、山法師成賢僧正行之。大鼓打螺吹也。コトノシキ也。七セシテ七度行之。船行也。東寺不行之。其故天王寺慧什阿闍梨カツラ河行之、アヤマチニ水落入り死。仍其後不行之云々。

(一三一③0仙芥集)

真言以五大為理、以識大為智、

六無壽故理不二ナリ。

五智房云、
交衆以後

七十余年、然四十年以來此理義隱沒シテ
人不言、以前三十年寺盛談此義、傷歎無極云々。

(一四 悲想伝授抄 阿鑊理智種子事)

152 童子經三本 不論黑白共八日十五日也云々

鬼子母女生一千人、天上五百人、人間五百人。此等養
為三歲已後七歲已前小兒取無限。或時尺尊取隱彼一子、
謂冰迦羅天也。鬼子母カナシムコト無限。於是栴檀乾闥
婆有云汝勿悲須參仏所即一人參仏所。汝有千子縱
雖失一子何必悲乎。母云。仏云汝尚余。况或是子、或二
三子、失之悲人心幾。汝取人子一事ヤメヨ

(一四 薄雙紙聞書)

153 蓋福袈裟文、世間カタヒラヲイトヒカケタルカ如シ

(一四 薄雙紙聞書)

可祈此尊也。

(一四 薄雙紙聞書)

155 大理趣房寂円元果孫弟也。

(一四 薄雙紙聞書)

156 又付此法廣澤大北斗行事、白河院余星アケサセ給ケル
間、成就院寛助大僧正仰懃懃令行之。七星七檀行之

(一四 薄雙紙聞書)

157 又大師承祈雨勅請雨經法行時、修因僧都四天下一切大
小龍泉取籠作障幕。大師自詣無熱池。

(一四 薄雙紙聞書)

158 咒賊經法

此已人物盜又雖末盜、若盜人オソヒ來望色アラ
ン時可用此法、又不局盜賊ニ平逆徒亦用之。九郎判
官義經反逆時被行之云々。又八幡殿時被行之云々。可尋之。

(一四 薄雙紙聞書)

154 弁才天

此有一字賀弁才天。種子ウ字形似蛇三形寶珠、但是福德一門也。二妙音弁才天。種子三形如今伝受是也。此不限管絃音曲一道、一切才芸付有望欽。有障欽。此時

159 長谷縁起云青色童子奉教行基菩薩於處ノ秘處中毗沙門來
下奉謁長谷觀音、カヘリサマニ所持塔長谷河下入、而取
出之宇都山埋之。即將行基菩薩往彼山自以金杵此
ホリテ奉見、九輪ワツカニ見エシニ水精珠塔故内外映徹、即

拝之給塔内安仏舍利云々。可檢彼縁起。

（一四 薄雙紙聞書）

163 百九
後七日口決

160 \字輪觀文 覚洞院勝賢僧正祈請有緣要法感夢云九字字輪觀

云々。覺已案云弥陀是八葉九尊故此要法示欵。其後經兩三年亦夢云未得九字要法云々。覺已トカクシク見字輪觀。

一本奥書云澄憲悲母者成賢ウハ當也。成賢桜下中納言成範子也。成範少納言入道子故。

（一四 薄雙紙聞書）

163 不空三藏受五代相承口決守金輪寶祚秘法伝仍玄宗朝召入内裏令修此法以来我大師相承之東寺一長者人勤修之要示其法則也。

後七日者正月初七日法師諱大裏不入故自八日始被修

之故云後也。

此法付最勝王經堅牢地神品如意珠品行之。祈國土泰平五穀豐饒故地神主地味如意輪令滿衆生所願故依此両品令行之也。名最勝經法即此意也。

（一四 薄雙紙聞書）

161 如意輪
当流意此尊以為衆生初入之実道故大師造此尊納广□部山_{本名転}為遺法護法王仍真雅源仁聖宝觀賢淳祐元果仁海以口伝受之自披經軌為行法之依望^{ウトルニ}而為末法仁海時勘出十五部経文殊化身云々。

（一四 薄雙紙聞書）

164 次擎吉尼印文此キッ子也。人近死門六月前血氣附掌内食_{スルカ}今印相蒙彼也。不動能延六月法此意也。

（一四 薄雙紙聞書）

165 石榴者鬼子母所愛之菓樹故余雜鬼等不能近之也。

（一四 薄雙紙聞書）

162 焰廣天_{七十九}_{延命修之}
藥師経疏_請云焰廣梵語此云靜息王云々。演密抄云此云平等王云々。山門是名冥道供此惣祈天下泰平然陰陽道名大山府君亦指此炎廣王不弁主伴也。外教之悞也。

今密教意行此法時勸請惣有十一炎廣王為上首

（一四 薄雙紙聞書）

166 振鈴文凡振鈴者是法身說法並驚衆生長眠之義故雖天等中有權者以實類為本故不振鈴也。

（一四 薄雙紙聞書）

167種子等事 壇上必東寺御舍利^一安^{ニス}、舍利アツカリ僧奉渡入之。又三宝一体者、一字所反寶珠^(麥)是名本尊、二壇上東寺舍利、三^ニ一山舍利^{是遙致觀想也}此三一体觀也。凡大師相承舍利惣有三、一善女龍王相承、二八祖相承、三大師自詣荼毗庭親感得之。

(一四 薄雙紙聞書)

168於九条殿下妙高院僧正問勝憲^一云法花法^{ニハノニ}何文可懸心^ヲ乎。勝憲答云、法花儀軌云虛空為道場^一理、菩提虛空相智^{ナリ}亦無^シ等覺者、真如故^{モトヨリ}如來可入此三廣地^ニ欵。時僧正殿下同^ク

□隨喜讚歎^{云々}

(一四 諸尊)

169或云法花法本尊多種也。仁和寺^一觀音、西^{ニハ}大日、山^{ニハ}普賢、三井寺阿彌陀。或不動、或釈迦多寶並為本尊^ト、或釈迦一尊、或多寶一尊、或兩界大日、或金界、或胎界、或不二、大日、□皆法花法□見^{タリ}釈迦即金界大日^マ

(一四 諸尊)

他流葉有不同^一云也。金界^ヲ金剛智・龍智伝是^一台界^ヲ善無畏・龍智受是^一共唐土越震旦^{ニテニ}互師資成授處也。或金剛智自本^一台藏界^ヲ龍智受是^一雖然^ニ互法力^{トテ}心ナラス被受云也。是他流習也。當流葉無不同^一。

(一四 聞書)

172室生龍穴寶珠事^(寺脱か) 覚日房此^ニ朱ヌミ取^{ス脱か}、法専長老令進。一期之後法流順忍長老方^ヘ被渡之。彼フタヲ有人拝見^{スルニ}ノニイハクフタ銘曰^シ此白骨御舍利者善如龍王頸下玉也。承元五月六日 空毎水^{云々}

(一四 聞書)

173持彼事^(寺脱か) 持彼人黃、範俊僧正入滅已時、自鳥羽院遣^{チウ}御使^{ツカイヲ}被仰^セ云明王秘事若残者此使者可注進^ス云々。再三後但以^テ二字入其中^ニ云々。禪林云、彼者無明即疑也。以本性蓮^ヲ打之^{リケリ}、令^{シムカ}開淨菩提心^一

(一五 瑜祇經伝授次第)

170妙見法 東寺^{ニハ}云妙見^ト、山^{ニハ}云熾盛光^ト、寺云尊星王也。仁和寺^云大北斗^ト。此法付息災^一修之^一也。

(一四 諸尊)

174カマクラノ西明殿聞松殿僧正此名^一之時、カヽノ法印乍被習不知申さレケリ、法印呵之^一以前授ケタルヨシ申ケリ。此法鳥羽院御時、辛酉年可修何法^{トキ}乎ト諸家真言師御尋アリケリ、

(一六 密宗雜決)

175 \ 千手敬愛^ト云事^{アリ}、範俊僧正為祇園女御修之^{一千八反云々}

(一六 密宗雜決)

181 口伝云求聞持法之功能者、智惠、聞持、福德、官位、皆成就^{云々}。但日月蝕時可見法之成否也。

176 \ 滅惡趣尊者地藏菩薩也^{云々}。仁海僧正護摩抄說也。

(一六 密宗雜決)

182 円光院聖靈之御追善一周忌之内百ヶ日、遍知院義範僧都被修此法^{〔隨求法〕云々}。被敬愛。着赤色淨衣^{云々}。(一八 授心抄 上)

177 西口云觀空僧正授汀於元果之時、以他門之弟子故聊存屈曲

附順山門等之義

片足長受之

(一六 密宗雜決)

178 \ 孔雀經事、仁和寺方^{ニハ}小野孔雀經雌孔雀云、仁和寺方雄孔雀咲也^{云々}。小野方^{ニハ}請雨經^{ヲモテ}為希有^ト。小野極大事也。

(一六 密宗雜決)

179 故兵部卿法印一流之大事能伝タレトモ諸流「」事五六許アリキ。信乃僧都諸流大事ツ□イナラフタル人ナリ。但シ勸修寺大事猶カスカナリ。尽^{シテ}見被伝^{云々}。又此兵部卿法印勸修寺方理明房弟子大納言闇梨云人被習^{ケル}也。

(一六 密宗雜決)

184 次禪飲者、法喜禪悅食^{云々}。法喜法門義理嘗為食、禪悅者、入禪定^ニ静^{ナル}時、四大微^ニ調停^{シテ}肥滿^{スルナリハ}、喜有心^ニ悅有身^ニ。初夜時飲食供専此觀念也。但不^{レハ}住六大無尋三广地^ニ、醍醐味誰知之^ニ乎。惜哉。古賢不嘗醍醐^{云々}。思之。

(一三 菩薩心論見聞)

185 一、厚雙子事
乘海所持本山本經藏納之。讓勝尊^ニ後成實賢弟子^ト云々。

180 或古老口伝云上醍醐准胝堂本仏者、聖宝僧正為為延喜聖主御奉造立、准胝堂件本仏頂上戴本師阿弥陀^{云々}。三尺尊像

云々。十八臂像^{云々}。

(一八 授心抄 上)

ヌスミカキノ躰也^{云々}

(二三 秘密打聞)

186 厚雙帯事、故雙帯之本□也。乘道所持本_(海か)_{山本經讓}藏在之_讓于勝尊_{（人か）}讓

讓勝円法印_{（人か）}令免法_{（人か）}上人_{（人か）}令写顯律上□□□讓

覺靜□□_{（人か）}讓釤阿_{（人か）}

(二三) 秘密打聞

・国王恩・檀越恩云々。二者心地觀經云父母・衆生・国王・
(二五) 教誠儀見聞集)

192 边土末世人情嬌慢以低着_{（シテ）}為好_{（シト）}故今淮世儀_{（シテ）}故云齊踝也。

(二五) 教誠儀見聞集)

187 賴賢「」本松橋ヲイタチ人也。淨信_(真か)_(弟)子也。淨信、成

賢受法之時、共成_{（成）}賢弟子_{（人）}又淨信之時、為_{（成）}真_{（シヨノ）}倣_{（シヨノ）}松
橋并遍智院相承大事意教上人ヤトシヲケリ。隨真倣者彼上
人受法_{（云々）}

(二三) 秘密打聞)

193 有抄云宋朝_{（シテ）}勅願寺名為寺_{（ト）}私建立_{（ト）}號為院_{（ト）}然今□必然、
只是惣寺中別院也_{（云々）}

(二五) 教誠儀見聞集)

188 「」クル程、城入道蒙准后許_{（ヲ）}空行房下_{（テ）}所授申_{（ト）}印明亦
如此。又泉殿教授御口決申文_{（テ）}以金界「」明記_{（セリ）}

此事実事「」本意欵。ハタ又傍_{（シテ）}故實「」不審_{（云々）}

(二三) 秘密打聞)

194 將面者、世中頬杖ト云是也。二十一中噓_{（トイテ）}氣_{（カニ）}者、世中_{（タメ）}
イキ云是也。

(二五) 教誠儀見聞集)

195 諸僧同時下床_{（テ）}合掌曲躬_{（ス）}是名下座_{（ト）}問訊欵。次亦上床_{（テ）}坐則
方始行香、次打槌_{（ト）}唱十仏名、次梵唄、然後行食也_{（云々）}

(二五) 教誠儀見聞集)

189 一勸修寺故實事
重授印信者、自興然時_{（ス）}申名目也。長史相承者、仁齊誠言_{（ヨリ）}
ヲコル也。

(二三) 秘密打聞)

190 律院教院_{（シテ）}令讀觀音經_{（シテ）}禪院_{（シテ）}令誦楞嚴咒_{（シテ）}併為此祈禱故_{（ナリ）}

(二五) 教誠儀見聞集)

196 資持尺云緩湯_{（トイハ）}謂沸湯亦損色_{（ハレ）}故或是將燒湯_{（ヲ）}洗物_{（ヲ）}即非用
故得罪_{（トイハ）}並制吉羅_{（シテ）}已。極樂寺開山大德依此等尺_{（ス）}頻成立不
可說之義_{（シテ）}□□行之。

(二五) 教誠儀見聞集)

191 有抄云四恩有二說。一者資持尺云阿含經、父母恩・師僧恩

梅尾明惠上人常教□□常須具_{（ス文字か）}七_{（ス）}七字者ナスヘキコト
ハ□。誠是金□也。

(二五) 教誠儀見聞集)

198匙柄向身者有水義。一云匙柄安身方匙頭向外二入鉢底是名向身也。泉涌寺頬円長老義也。一云頭向身而入鉢底則柄自向身也。明觀長老之義也。兩義俱為不今触着左右往後人故也。

(二五 教誠儀見聞集)

199実仙云此論義常セス。イニシヘ上洛之時、アワタ口静法印御坊同宿時、対御同宿二位阿闍梨明キ、談正理時、其朋朝円以消息尋之。其時予答云、金剛喻定名可通三乘也。

(二六 具舍論頌疏見聞)

200師云寺円観法眼、宇都宮下被談義時、常住修行者百人計有、一人不得意也。只大概有間打聞、實尔也。

(二六 具舍論頌疏見聞)

203次、三井寺証空阿闍梨画像、不動誘行者、元興寺画像、吉祥天女為持者与罰言、況於色心万法具三声字実相。者、法仏平等三、衆生本有三業也。(三七 両部大經教主事)

204大政大臣師長公、法名長円

1一太政の大殿尾張国へなされさせ給去保元々年御年廿にて中納言中将申時、父悪左符縁ましますによつて、兄弟四人土佐國被流罪給候。御兄の「將兼長卿御弟の左中將隆」長禪師も皆配所失させ給へき「」経長寛元年六月被「」本位後「」十月前中納言「」權大納言「」タマフ大納言「」加給大納言「」ウツル「」山科大臣「」隆家卿前例「」詩哥管絃道達才能人勝「」

(三八 法華懺法聞書)

201那爛陀寺有十余所大池、毎至晨時寺鳴犍稚、令僧徒洗浴人皆自持洗浴裙。其浴裙法以疊布長五肘、闊肘半、繞身使巾抽出旧裙

(二六 毘尼要抄)

205竹云護財醉象者、惡象損害人故為守護財寶、彼象財寶邊置也。故護財醉象云也。醉象者、醉酒醉人其心狂醉如損人彼象又如是。狂醉損人故名醉象也。

(三九 法華玄義私見聞六)

202古德伝多以孔雀經法兩蝕及祈雨法用之。雨僧正孔雀・愛染兩法持者、或時以愛染祈雨、或時以孔雀覆雨輪度々顯法驗。此人知道、為道表法、為法付之。師々相伝大事定候歟。

(三三 金剛秘野決内)

(四〇 法華疏記抄卷末詳)

207 尋明禪御出家由來、十三時冠服「」御名申父宰相殿不慮出家サセマイラセタリ。其故宰相兄光頼云人臥病床有故御訪宰相泰經タリケルニ光頼云子一人モチタリ、御辺アツケタリマツルト申給ケレハ「」給。我子^(考)タニモハノタイニヲロカニモアタラスシテ我子十三出家サセテ有之云々委可見別紙。

(四〇 法華疏記抄卷末詳)

208 ム云延云桓舜題者「」申曰法城寺立義作之、三井頼^(僧)偷立者談算題之時比^(誤)也。「」而桓舜云是先師恵心被仰算、或我心在第四席一起之苟汝不可捨之、有先証事也。「」仍頼僧歸伏取談之^(云々)

(四〇 法華疏記抄第九)

209 故^(録)物語云有禪僧堂談禪法門一有野干反翁一行此聞時、此翁遇長老仰言某甲過去禪師候時人文因果一問候依不落因果答候今受此身候。其候處此アタリノ原ツカノ候栖候也。長老サテ何可答。問此可云不昧因果可答也。サテ此人聞禪法門候速可得無余候。サテ行アナノ口百丈坐禪義云々

(四二 文句第八^(ム上))

210 玄仿大師云人入唐年已經多年、其後帰朝^(セントスル)時、唐人云帰朝

セスシテ是住云、此人名返見返亡スト云々。終還来内裏庭中ノ御イノリノタメニ為行法、其コロ有合戦、其合戦ヤカ^(ヲ)ヒソンテヤラン行^(イテ)ノノ^(欲)云々。唐人云事ト今至マテ物語スル也。明雲座主唐人此人名相云、明日月メ吉カ、但雲覆日月不吉也ト云相タリケルヤラン。平家合戦時、終蒙勅勘流給。其後召返□□如前行法ケルカヤ行死^(テ)云々。

(四二 文句第七^(ム))

211 鎌倉万行聖人有。此人他行必ユキハツルトキハ雨力フリケル也。其イカニトタツ又レハ、ウハヤマト云カミノ此聖人アンシャニ常タクシテ此聖人守護^(シケル)也。此ウハヤマタツヌレハ^(模脱)相國ノ人也。朗弁僧正ト云人此^(カ)人子也。僧正□^(テ)南都行学文シケルヲ、コイテ此ウハ山ト云人テツカラ行テヤカテ相イタリケル也。返此朗弁相國ニシテ住給ケル也。此人天長地久イノリ給ケルカ院ノ御耳ニ聞ヘタリケル也云々。南都云覆藏^(ト)也。

(四二 文句第七^(ム))

212 問。唐四明、成覺師弟欽。答。四明師也。成覺弟子也。法報^(北峰)智礼孫弟子也。法報作教義十八帖、是度日本^(有)ケルニ、唐字形ニ字テ「」人々讀出今日本意書^(タリ)、是秘。

四明歷々、成覺師義タカクテ理ト云テ師「」也。成覺

法門大旨同^{シタリケル}余宗間、先ハン成^ハケリ。□花ム法相法門同^{ス云々}。後四明法門弘マリタリケル也云々。北山証者、泉踊寺^(通ニ)ノ可然^{キル}首祖立^(座チツモト)ヘイコウニ云ケル間、余僧疑ヨンテ云ケレトモ不カナハ^ノ申王言^{ヲス}。サテ北山^{マニ}慈明堂云所僧躰^{ニシケル}住給也。泉踊寺長老内々^{ニテ}值^コノ人読物^{云々}。

我若長老古法師云也^{云々}。復□正者、花ム家物作也^{云々}。天台宗^ヲヘツラウテ作タル也。

経海、淨明与証義、サカノ天王御時、召令ラレテ止観序被讀、弘決序ヒキチカヘテヨマセラル、□此人止観序^ノ有リケルニ、サハナウテ有リケル間ヨミソコナウ。次タヒハ吉ヨミタリケル也。

(四二 文句第七物)

213 大和三年宗論、先花ム・三論初重劣タリ。天台・法相七日アラソウ。法相人立テマイケルヲ、囑累前後タカツクヘ三車一車我得タリ云々

(四二 文句第七物)

214 □三千大千世界云。一經前後兩經文相尤可為^ハ也。此義當谷流并毗沙門谷等以此^ヲ為秘事^ト精義詮スル也。

(四三 宗要集口筆抄一上)

215 次宗論事夫今義不可出、但聊有意拋。西塔邊宗要根源、為明白他宗諍也。其故御廟大師^{応ワニテマシテ}和宗論勝御坐後為御

(四三 宗要集口筆抄第三)

216 或又、天台山円宗寺前有^ニ竹林、其中白足猿躍出以文奉授大師、自行化他吾常影向言誓發^ニ円宗守護願示云々。此猿者即今大宮權現習奉^ト也。三国共以山王^ヲ円宗守護為^ト云事此等說起也。已上三義中山王相承云事尤可ニ仰信之一云々

(四四 倶舍論頌疏文集見聞)

217 物語云^(若ノ隆)宮際弁僧正成行^ハ於^ト給^{ケハ}依此論義也。講師答此論義時、非私会運^ニ云今文誦出同故^ハ十九卷隨生上界移誦、今文初後文終^ト其^ハ同時嘆タリケリ、其退屈成行人。宝治時不成若宮別當^ニ前六年中、國^ニ社籠大般若四十^ハ晝夜三七日^ニ讀レケリ

218 中比鎌倉大將家頼朝兵亂之時、三井寺住侶甲斐アサリト云人伊豆山当住在時、有對面脱兵難^ヲ法在^{カト}之得之時、アサ

リ大勝金剛之法刀兵不能害之誓在之、大勝金剛明書袖下納之。又書種子一鎧袖上付之一銅ニケニ打ヲテ又云書勝字一付袖一云々。
(大勝金剛法)

此法息災之中第一也。故建保六年中秋之比、中宮御產平安御祈禱被修此法ヲ。実此法為勝軍ヲ在歎害無明之怨敵ヲ安住スル炎之花京ヲ是召勝軍之義也。以之ヲ為即身成仏故經云得成遍照尊一

(四五 諸尊同秘決)

219 照敏ハ四明同時人也。年六十許也。四明蘿次上良也。此清師弟子照敏法師教師義ハ故、上破清師之。破弟子也。

(四五 十不二門指要鈔聞集)

220 達廣門下三人得法而有淺深者、祖云相伝説挙也。

了智云達廣弟子有四人。正法眼藏云觀音導利院。達廣大師將返西天謂門人曰時將至矣、汝等盍言所得乎、時門人道副曰如我所見不執文字不離文字而為道用、師云汝得五皮、尼惣持曰如我今所解如慶喜カ見阿閦仏國一見不再見一、師云汝得吾肉、道云四大本空五陰非有而我見處無一法可得、師云汝得吾骨、最後惠可禮拜後依位坐、師云汝得我髓、於是伝法付衣文

(四五 指要鈔聞集 卷上)

221 或記云醍醐法印勝一自安元二年七月比、建春門女院御菩提一周忌之間、於法住寺北内裏墓給所也令行光明真言法、向南ト被

懸兩界曼茶羅、諸事普通息災法也。爐形同也。

(四五 光明真言)

222 金剛王院大僧正先師御物語云應保二年秋、宰相公琳海病惱之時、重源ハ祈之時誦光明真言、而三寶院權僧正託病人云光明真言アモ一ガ句下ニハ加句アリカハカリモ不可云事也。又我常住上醍醐准胝堂内陣一也。又勝賢我追却也云々。

(四五 光明真言)

223 三寶院權僧正勝賢云為祈円光院聖靈之御菩提、於遍智院僧都範被修光明真言法ヲ之時、向東マダラ胎藏大日尊本尊也

(四五 光明真言)

224 重仰云凡諸事摺念珠ニル事三井覓イユ僧正摺始之、以前不摺之也。自下摺珠事准知矣

(五六 十八道口決)

225 方今、法主聖人建立七間講堂一安置三尊聖容、千眼大悲像一旧所安置一也。

(五六 上素帖)

226 避蛇法、醍醐ニハ蛇サクヨム也。即煩惱蛇サクル義也。即降三世法也。勸修寺辟白作字也。蛇邪作字也。白法邪法也。即如意ウ朱法習也。

(五六 憲芥抄 諸尊)

227 駄都法、諸事可行、殊増益也。

大師御作
号末法一字心咒等者、五部肝心出。舍利法御骨也。目出

也。舍利法無法性殿忠通仰有宗意有申給行給。自其世弘内山真乘房伝之。又大夫宝印円長伝之。真乘坊者三密

房弟子内山者建立寺永久寺云也。

（四七 妙抄又帖聞書）

228 宗意律師者嚴覚付法弟子也。嚴覺範俊付法弟也。

（四七 妙抄又帖聞書）

229 太元法修人一人定、此人太元別當。當時別當宗嚴二人付法内刑部法印行嚴生嘉貞元年自京下給大夫法印円長生年六十九院序云所大極殿辰巳アリ。此所太元法大師入定後始之

大師御時寛武天皇御宇七改勘解由使序号真言院。後七日御修法真言院勤ナリ。以乾臨閣一名神泉園。此昔帝王戲所也。今不然。伴所有勤時作仮室也。

（四七 妙抄又帖聞書）

230 印師仰云昔鳥羽院御時、南都南円堂改地引時、鎮壇具足引出、諸流真言師問之給各皆替不同、召賢覺理性房問給、嚴覺其次第申。大師御次第悉不改。其時院仰云、嚴覺

鎮壇オヒテ極メタリトアリ。

（四七 妙抄又帖聞書）

231 抄云練若者、此梵語也。具阿練若云、是無観雜云也。シツカナル処也。

（四七 妙抄下帖聞書）

232 抄注顕長三川守云人為実運行給次第習々也。件守徳人也。家ホラトノ、スキトノ、二一家作クラレシ也。ホウノ木以皆同木家一作。アヤスキ以同家一作人。

（四七 妙抄下帖聞書）

233 七草者北斗七星下七草菜成

七草菜者セリ、牛形、ナツナ、ハコヘラ、正月七日此七草菜ノナヲ食スレハ吉也。

（四七 妙抄下帖聞書）

234 凡一切病不過三病。々々者、業病・鬼病・四大不調病也。理智教者、此能治之三藥也。

（四八 秘抄口決第一末）

235 義範僧都成尊之弟子、勝覺之師範、堀河鳥羽之明匠。既是末代也。

（四八 秘抄口決第十二）

236 陰人等顯事後口云此法息災第一法也、習之。仍覺洞院僧正後白河院御

時、九郎判官義経依謀反^カ世上不靜之間、御祈尤可行此法

之由被計申、則僧正被行之了、此即金剛界次第出仏眼之功能^ヲ云或有惡人作留難者想彼人在瑜伽者足下誦真言作留難者消散不能障^シ云々。存此意^一被計申歟。

又東寺宝藏入盜人取仏舍利道具等^ヲ了、彼御祈宮僧正道尊可被修仏眼法^ヲ之由被計申シヲハ、故遍智院僧正能被^{ハクタリト}申被仰ケリ云々。^{覺禪}同抄云、師主權僧正文治三年三月比、依宣旨^ニ義顯尋出斬何法可修。彼被召尋。仏眼法可被修^一由答被申了。其後於本寺被行之。

有^ニ法驗^一義顯九郎判官改^レ名也。

二七日被斬了。三七日被行也。

(四八 秘鈔口決第一末)

237 薬師法。

此法大宗事

問。此法大意如何。答。報恩院御口伝云此法本意胎藏大日入除病延命三广地^ヲ発十二天願^ヲ滅除^{スル}一切衆生業鬼四大等之衆病^ヲ形也。法界定印^ヲ上持^{スル}藥壺^ヲ即此表示也云々

(四八 秘抄口決第一末)

238 問。用吉慶梵語^ヲ何故哉。

答。御口云吉慶讀者、尺迦^ヲ八相作仏讀^{タル}也。仍專可用之^ニ道

理顯然也云々。

(四八 秘鈔口決第一末)

239 御口云藥師^{ヲハ}習台藏^{トノ}大日^ト法界定印即此意也。日野本仏藥師也。然彼寺名法界寺^{トノノモ}其名尤相應^{セリ}故遍智院僧正常被

仰^シ云々

(四八 秘鈔口決第一末)

240 迦樓羅^ト者、金翅鳥也。如彼鳥常大海扇^{ヲテ}ノケテ食^{スルカ}惡毒龍子[。]

(四八 秘鈔口決)

241 先年、於笠置山^ヲ与解脱房上人^一論談^ニ宗陀羅尼^ヲ義^一之時、今

兩所之尺出之決之。上人深感歎、於石像御前^ニ啓白之云々

(四八 秘藏記抄卷二)

242 尋云、十識^{ヲハ}尺論云一^ニ心識^ト、今一切一心識^ト云、是第九識

名也。如何。答。智証尺中^{ニハ}開理智為十文。是第九識^ノ上開理智^一故一切一心識^ト云、今義潤色也。尺論一^ニ心識^ハ自証理^ニ故理自理^{トスル}尺^也。智証開智為十者、尺論生滅門多一心識即是也。是^{ヲハ}等智自理^{トスル}尺^也。

裏書云、理自理故世流布達廣宗是也。御請來錄外法寶壇經五祖經也。

(四八 秘藏記抄卷二)

243 弁才天。

仰云大弁功德天者、此天也。只功德天云、吉祥天也。竹生嶋・三ノ尾・エノ嶋、皆八臂天也。宇加弁才天八臂也。荼吉尼弁才天白孤垂。其不習邪法方習入也。

(四九 白表紙異尊上下口伝)

244 金翅鳥法
仰云雷火難フセカンタメニ行也。

(四九 白表紙異尊上下口伝)

245 帝釈法

檻福者、仰云ウチカケ袈裟也。三国相伝、乾陀敷子、袈裟絹。翻香色。

(四九 白表紙異尊上下口伝)

249 守護經

弘仁元年十月廿七日大師御上表。此法大師行給事太、慥日記シ、凡鎮護國家四ヶ大隨一也。其意見、經題已上

(四九 奥秘抄 下)

246 無垢淨光陀羅尼

実範奉為美福門院修此法也。

(四九 白表紙異尊上下口伝)

250 孔雀明王

同本異訛、經是多。不空記。大師御将来經用也。題目大孔雀明王經三卷。

(四九 奥秘抄 下)

247 転法輪

此法調伏法也。先年異釵之時、酉酉座主大僧正定清奉被修。是秘法也。是転法輪井法也。大輪明王者、彼転法輪井忿怒身也。故此法或転法輪井為本尊。或大輪明王為本尊。云々。或伝大輪明王者、弥勒忿怒身也。此法イト甚深口

251 又云此句靈加句云也。權僧正勝覺己靈託大仏聖人(ママ)即眷乘房於上酉酉住房示甚深法門等。爰中將阿闍梨琳(海か)法於靈前誦光明真言。靈聞之云加句アリ。唵穆欠云々。琳海聞之則相尋之處、自本有此習。自此後靈加句云也。

(四九 奥秘抄 中)

伝習タム大日藥等合也。筒シタムル秘事。如然秘事、昔文不載也、タム師云口決來而今秘抄是被書載、是無念事也。

(四九 奥秘抄 下)

252 一髻文殊提婆品海中涌出像也。一乘弘通故一髻表也。或人云尤如一顆宝珠断セシハ虚空藏也云々。智証大師御義也。

(四九 奥秘抄 下)

明王不取五井内、中央金本尊スト云事分明也。仍今次第
金用也。

(四九 奥秘抄 中)

253 太元

此明王梵号阿陁縛俱沙也。是小栗栖常暎律師将来也。自余以来每年正月後七日同時被修。太元アサリトテ別定レル也。近安祥寺顯惠僧正此法アサリタリキ。其外上代イト可然長者ナントノ此法アサリタル事無。三宝院光宝法印被行云々。実慶僧都行事アリト云々。此外三宝院自昔此法修人無云々。但此法匡房口説与立劔輪印云事申出……

(四九 奥秘抄 下)

254 此印即不空三藏御入滅印也。秘中極也。當時御影印相秘外縛如。仍大師殊此法秘藏内証シ給事。東寺門徒知法人皆存知。又大師殊諸尊中、五ヒ儀軌文引、即身成仏三密加持証給。实此法有以乞能々可思之。十七万タラ理趣経法可明之。

(四九 奥秘抄 中)

255 東寺古河臨法修、玄運於木津河修此法ケルニ主入水了、自是以後依「」河臨法不修之也。鎌倉大臣殿御時、忠快法印於相模河修之畢。

(四九 奥秘抄 下)

255 東寺講堂本尊五仏五大明也。其中大師御意中方金剛到岸井當御。又無障金剛次第御作此金剛到峯正本尊。故五大

256 梅尾明惠房良弁改名或月夜□一人高河原遊行之時、破古□ノキタルカフロナル童出来親近間、身毛豎怖畏之時、羅右文之時彼童忽没云々。

(四九 祐介集雜口伝、建長七・六・十)

259 北辰井別行法云北辰井名曰妙見。權鎮諸國土、所作甚奇特
故名曰妙見。在於閻浮提衆生中最勝。神仙之中仙。之大

將ナリ。故名曰妙見。在於閻浮提衆生中最勝。神仙之中仙。之大
將ナリ。

（四九 異尊 下）

260 檻カイタウ。檻。袈裟

三部鈔云打懸ト、或師云衲衣ト

（四九 異尊 下）

261 補幡袈裟ウチカケケサ。此袈裟者律、書中云不入右脇下ハタ、只肩上打懸ケタ、宿德之義也。

（四九 異尊 下）

262 私後加事

尋云安鎮法大師御請來無之、如何。安鎮法宗叡将来、天寶十五載、安祿山欲侵去(玄)宗皇帝、不空修此法。一行着甲胄大刀ヲ膝下持。彼時八方神旗経法者即安鎮法也。通憲入道試問真言師之時惠什答云、彼八方神旗経法者即安鎮法也。

（四九 秘鈔口決 中）

263 宝珠事異説雖区々、今流只二果也。如師伝相承。殊範俊時

奉白川院、被納白川院御願摶光明院宝藏。其後依寵給一家成中納言後白川院御時、通憲申宣旨責之。家成死去、彼子息隆季返奉之時、澄憲僧正□□時、可令見之旨院奏、令見之拝之。後東大寺大仏鑄造之時、与南無阿彌陀仏相誓作宝珠

收仏身云々

（四九 秘抄口決上）

264 却溫神兜経云、沙羅怯三說文

明惠房説云、此三寶名号三唱ヲタビヘシト云義也。沙羅怯者、三寶ヲ惣沙羅怯云也云々。取意。

（四九 祐芥集 雜抄）

265 物語雲南都興福寺覺憲僧正弟子長慶（笠木解脱上人是也）夜居程學問身

疲レケレバ、爐火ニ、灰脇足寄懸睡眠カケテシテ、夜深打驚爐火フケテ力キ揚見ホソク、
ト消殘リタリテ寄薪ヲ助亦ケチ發起シタタリ、長慶見テ菩提心發ヲス即ツリ火鉢ヲ提
テ覺憲僧正許往案内シケレバ僧正出見テテ之ハ。長慶申云此火起候見リテ參ニ
入メシカタメニチレリ将来ハ、其故夜居埋時火炉ニツルハ、滿作寒夜侵ヒカルカ、
如螢火ノ以薪緣ノノラ助候亦如元テヘ、以之案之我等自受法身智火無明
煩惱寒夜侵ニシテ只前ヲノミ一境見ホソク消殘ヲ此助法界照大智光ヲスナサハ
ヤト存候ル。イトマ申閑居セント申ケリ、僧正云サテハ道心
發タルワコサナレ態トモカウコソ勸メタケレ尤可然云云々。即夜中笠木岩屋ト云、
往玉キヒス。而或人菩提心論ハ一切衆生於心質中有一分淨性文ト云講如
此ヒキ云彼長慶言權教意故尔ルカ。一乘已上法門不爾ハ。一等得意條甚
以不可也。

（五九 第六住心見聞）